

名古屋駅前で「一夜限りの盆踊り」が 2年連続あった深い理由

名古屋駅前の旧名鉄レジャック跡地に整備された都市型広場「Meieki Parklet」で開かれた「一夜限りの盆踊り」＝7月10日、筆者撮影

名古屋市の名古屋駅前で7月10日、「一夜限りの盆踊り」と銘打ったイベントが開かれた。高層ビル群に囲まれながら市民が輪になって踊りを楽しむという企画。名鉄グループの駅前再開発に伴い暫定的に整備された広場で、本来は昨年1回限りで終わるはずだったが、名鉄の再開発計画の見直しで今年も継続されることになったのだ。

◆「名鉄レジャック」跡地を整備した期間限定の広場◆

場所は4年前に取り壊された商業ビル「名鉄レジャック」の跡地で、所有者の名鉄都市開発と名古屋市が「居心地がよく、歩きたくなる（ウォーカブルな）」街づくりのために協定を結び、「Meieki Parklet（メイエキパークレット）」として昨年8月にオープンした。

約1470㎡の敷地には遮熱舗装を施し、日本初の太陽光による自動開閉シェードを立てたパークレットと、キッチンカーを並べられるイベントスペースがある。当初、イベント

スペースの活用は昨年11月末までの予定で、それまでの地域の賑わい創出とPRを目的に昨年8月29日から3日間のフェスティバルが企画され、その初日の夜に開かれたのが第1回の「一夜限りの盆踊り」だった。

イベントスペースの中央には紅白の布で覆ったやぐらを設営。カラフルな提灯も飾られ、祭りの雰囲気醸し出した。日程は「どまつり（にっぽんど真ん中祭り）」とも重なったため、主催した名鉄都市開発にとっても集客はまったく未知数だった。

◆昨年11月までの予定が再開発計画見直しで「未定」に◆

しかし、踊りの選曲や指導役を「盆踊ラー」と呼ばれる盆踊り愛好家に依頼すると、彼らのネットワークでたちまち情報が広がった。盆踊りは今や歌謡曲やロックに合わせて激しく踊り、皆でストレスを発散する場ともなっている。会場には若者から年配者まで幅広い

年代の「盆踊ラー」が集まり、彼らが踊りだすと、たまたま通りがかった人たちが興味を持って踊りの輪に加わる。選曲を担当した一宮市在住の会社員、西尾真弥さんは「各地で町内会などの盆踊りがなくなったり、時間が短くなったりする時代に、都会の真ん中で思